



継続することで職員の育成に努めるとともに、林産業に携わる人材の育成や雇用創出への支援に取り組めます。  
特に令和2年度は、林野庁の林業成長産業化地域創出モデル事業の指定期間の4年目を迎えることから、木の町復活に向けた重点的取り組みに位置付け、木の町「コミュニティ館」の建設準備に入ります。  
この施設を林業振興の拠点施設に位置付け、町の林業振興の情報発信に努めます。

### 観光の振興

みなみやま観光(株)、会津高原リゾート(株)、会津高原フレンド・カントリークラブ(株)の3社を統合した新たな第三セクターが、本年4月に設立される予定です。スキーシーズンはもとより、新会社のスケールメリットを生かすことで、教育旅行や農家民泊、合宿誘致などのグリーンシーズンの誘客が期待され、雇用の確保や地域経済への波及効果はもちろん、将来的には地域住民の福祉や教育などを、総合的に

### 結びに

合併から15年目を迎え、合併特例による財政優遇措置期間終了後の激変緩和期間が、令和2年度で終了します。  
町の財政は、依然として地方交付税をはじめとした依存財源の動向に大きく左右されるため、効率的かつ計画的な財政運営に努める必要があります。  
そのような中でも、時代の流れを見極め、さまざまな課題に

### 安心して生活できる環境づくり

に担える会社となることが期待されます。  
また、建て替えに着手しているさゆり荘は本年中に宿泊棟を建設する予定であり、この施設が観光の核として地域の活性化に結びつくよう事業を進めます。

#### ①子育て環境の充実

少子高齢化が進む中で、子育て支援は重要な施策です。安心して妊娠、出産、子育てができるよう、子育てスマイル支援事業の継続、さらには、産後ケア支援、妊産婦医療費助成などの施策で、引き続き総合的に支援します。

#### ②公共交通の在り方

全国的に高齢者の運転による

事故が問題化し、その防止対策が課題です。  
本町でも、運転免許証の自主返納を制度化していますが、日常生活で車が運転できなくなるという不安や不安が、自主返納につながる一因となっています。

#### ③防災対策

昨年10月に台風19号が通過したときは、一部地域に避難勧告、避難指示を発令しました。  
幸い人的被害はなかったものの、町道や河川、農業施設などで多くの被害を受けたので、これら被災箇所を早期復旧に向けて取り組みます。  
また、田代山の山腹崩落と西根川への土砂流出では、今後とも国や県に対して、抜本的な対策を講じるよう強く働きかけます。  
これまでの経験を生かして、災害発生時に速やかに防災体制を整えるとともに、常日ごろか

## 栄えある受章

### 秋の叙勲



猪股 洋さん(田島上町)  
「瑞宝単光章」を受章

猪股洋さんが秋の叙勲「瑞宝単光章」をめめでたく受章され、12月11日に伝達されました。  
猪股さんは、昭和49年4月に旧田島町消防団に入団。平成2年から副分団長、平成16年からは分団長を歴任されました。

合併後の南会津町消防団では、平成24年から旧田島支団副支団長を務められ、退団されるまでの44年余りの長きにわたり、地域住民の安全を守るとともに、地域防災に尽力されました。  
このたび、長年のご功績が認められ、晴れの受章となりました。

### 次世代を担う人材育成

#### ①東京2020五輪・パラリンピック競技大会

3月28日に、町内で聖火リレーが行われます。多くの町民の参加で機運を上げるとともに、競技大会を契機に訪れる多くの外国人をおもてなしの心で歓迎し、町民の皆さまとの触れ合いを通して、地域の活性化や交流につながる取り組みを進めます。



東京五輪の合宿誘致に向けてアルメニア大使館を訪問(大宅町長とグラント・ポゴシャン大使)平成30年1月11日

ら町民に対する防災意識の啓発に努めます。

### 秋の褒章



児山孝美さん(長野)  
「藍綬褒章」を受章

児山孝美さんが秋の褒章「藍綬褒章」をめめでたく受章され、12月17日に伝達されました。  
児山さんは、昭和56年6月に旧田島町消防団に入団。平成16年から副分団長を務められました。

合併後の南会津町消防団では、平成20年から分団長、平成31年から副支団長(第1支団副支団長)として団長を補佐するともに、地域住民の生命・財産を守るために日々活躍されています。  
このたび、長年のご功績が認められ、晴れの受章となりました。

### 地域力の向上

また、アルメニア共和国のホストタウンとして登録されたことから、競技大会終了後に、同国の選手や関係者との交流の場を町内に設けます。  
多くの町民との交流を通して、豊かな人材の育成をめざします。  
②県立高等学校(鶴巻)統合問題  
両校振興連絡協議会や同窓会、さらには地域など、関係する皆さまと連携し、2校存続を必守するべく、引き続き県に対して強く要望していきます。

町の未来像「互いを思いやり、人と自然がやさしさに包まれた、安心と信頼のまち」を目指すためには、元気で笑顔があふれる地域づくりが、まちづくりの基本です。  
集落内の交流はもちろん、その枠を越える多様な交流の機会をつくることで、さらなる集落の発展につなげるためにも、移住対策を人口減少の重要事項と位置づけ、情報の発信や相談体制の充実に努めます。